

回	テーマ	著者名	書籍名	出版社名	出版年
第1回	開発と近代化	桜井哲夫	『「近代」の意味—制度としての学校・工場』	NHKブックス	1984
第1回	開発と近代化	今西錦司	『進化とは何か』	講談社学術文庫	1976
第2回	社会的起業家(Social Entrepreneur)は救世主か？	P. F. ドラッカー	『イノベーションと企業家精神』	ダイヤモンド社	1985
第2回	社会的起業家(Social Entrepreneur)は救世主か？	ジョン・エルキントン、 パメラ・ハーティガン	『クレイジー・パワー社会起業家—新たな市場を切り拓く人々』	英治出版	2008
第3回	公共と正義	小林正弥	『サンデルの政治哲学—「正義」とは何か』	平凡社新書	2010
第3回	公共と正義	ユルゲン・ハーバーマス	『公共性の構造転換』	未来社	1973
第4回	開発は悪魔の碾き臼か	ヘレナ・ノーバーク＝ホッジ	『ラダック—懐かしい未来』	山と溪谷社	2003
第4回	開発は悪魔の碾き臼か	ミルトン・フリードマン	『資本主義と自由』	日経BP社	2008
第5回	満腹と幸せと開発の関係	ラジ・パテル	『肥満と飢餓—世界フード・ビジネスの不幸のシステム』	作品社	2010
第5回	満腹と幸せと開発の関係	川島博之	『「食糧危機」をあおってはいけない』	文藝春秋	2009
第5回	満腹と幸せと開発の関係	小暮真久	『「20円」で世界をつなぐ仕事—想いと頭脳で稼ぐ社会起業・実験ガイド』	日本能率協会 マネジメントセンター	2009
第5回	満腹と幸せと開発の関係	心の中はいつもマカシンのハン ツ	『世界がもし100人の村だったら③たべもの編』	マガジンハウス	2004
第5回	満腹と幸せと開発の関係	トリストラム・スチュアート	『世界の食料ムダ捨て事情』	NHK出版	2010
第6回	開発と社会関係資本	ロバート・D・パットナム	『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』	NTT出版	2001
第6回	開発と社会関係資本	筒井淳也	『親密性の社会学—縮小する家族のゆくえ』	世界思想社	2008
第6回	開発と社会関係資本	佐藤寛編	『援助と社会関係資本』	ソニー経済研究所	2002
第7回	社会的排除と包摂と開発	阿部彩	『弱者の居場所がない社会—貧困・格差と社会的包摂』	講談社新書	2011
第7回	社会的排除と包摂と開発	湯浅誠	『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』	岩波新書	2008
第8回	幸福論は開発に革命を起こすか	ブルーノ・フライ、 アロイス・スタッツァー	『幸福の政治経済学—人々の幸せを促進するものは何か』	ダイヤモンド社	2005
第8回	幸福論は開発に革命を起こすか	アラン・アトキンソン、枝廣 淳子	『GDP追求型成長から幸せ創造へ—グリーン経済とそのあとに来るもの』	武田ランダムハ ウスジャパン	2012
第9回	の並かはいて山不はいして、の並しや山不はいし と	ロバート・ライシュ	『暴走する資本主義』	東洋経済新報社	2008
第9回	の並かはいて山不はいして、の並しや山不はいし レ		『ソーシャル・ファイナンス革命—世界を変えるお金の集め方』	技術評論社	2012
第10回	開発と文化と社会学	原洋之助	『クリフォード・ギアツの経済学—アジア研究と経済理論の間で』	リプロポート	1985
第10回	開発と文化と社会学	マルセル・モース	『贈与論』	ちくま学芸文庫	2009
第10回	開発と文化と社会学	宮本常一	『忘れられた日本人』	岩波文庫	1984